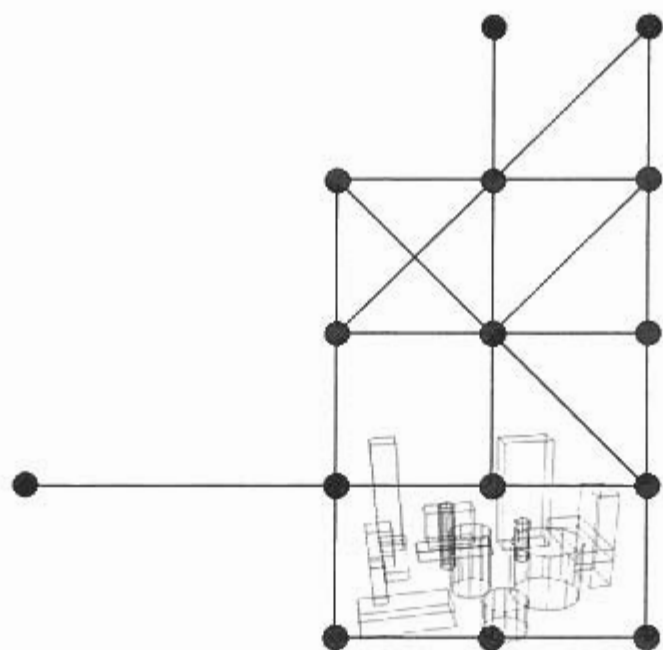


NO 15

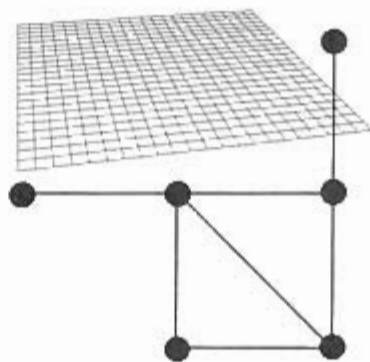


ITSUMIKAI

五三会

広島工業大学建築学科同窓会

昭和63年度版



目 次

ごあいさつ	2
OBだより(広島から)	4
OBだより(近畿支部だより)	6
在学生だより	7
第13回五三会コンペ入選発表	9
第14回五三会コンペ作品募集	13
第15回総会のおしらせ	17
建築学科ゼミ紹介	18
昭和62年度卒業予定者就職内定一覧	20
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿	22
母校キャンパス案内	23
五三会活動報告	24
五三会収支決算報告	25
広島工業大学建築学科同窓会「五三会」会則	26
役員の変遷	28
五三会第15号(昭和63年度版)スポンサー一覧	29
お知らせ・編集後記	30

ごあいさつ

五三会の諸賢に祝言を呈す

五三会顧問 佐藤重夫

「技術は教えられても、手や心は教えきれない。どこまで見るかの見ようのみだ。その見ようは永遠の世界が対象なのだ。だから建築は面白い」これは私が何時も我が心に言いかけ、学生たちにも言っている言葉であって、私の反省の據り所である。しかも教えることも少なく、教えないで荒波に突き落す荒手法で、勝手なことをしていることも多いとも思っ、身の細る思いに陥ることもある。しかし、それでも崖上から巣立ちする海燕のように勢いよく、洋上遠かえと飛立つ学生のことを思っ、先生という有難さに涙がでるほど感謝することもある。

とは言っても、技術を高め、人間社会の文化の向上に努力することは真に困難なことである。科学技術は全て論理であり、論理なき技術はあってはならない。しかし、技術の発展によって人間社会の文化向上があるためには、人間社会の人倫、人間性、倫理により美化された上での論理が用いられねば文化の向上に役立つことにはならない。

凡そ文化とは人の文化、人々の文化、人々の社会の文化、人々の生活の文化、家族、あるいは家庭の文化でなくてはならない。このような多くの、様々の文化が集大成されて地域の文化、社会の文化、民族や国家の文化になることを思うとき、我々一人一人は大きな働きともいうべき役割りを天より授けられていると思わねばならない。そこに真に美も喜びも笑いも、やさしさも香りも味もあると思

う。私は論理と倫理のそれぞれの場に於いての、ふくよかな調和の上に人間社会の真善美が成りたつものと信じている。それは地域にも、都市にも、都市其他のあらゆる建築、あるいはそのインテリア、家具等にいたるまで、そうでなければならぬと思っ、そうでなくて、人や社会の一部の原因にのみ促わられては、全ては逆行してしまうと思っ、先日の東京六本木のディスコで発生した照明器落下死傷事件は前述した大切なところを脱落した著しい人災の不幸な例であって、社会に強い反省を強いていると見なければならぬ。それは官能にのみ重点をおき、動物的麻ひとまでは言わなくとも、人の弱さから逃避する心情を利用しようとする物質社会の過剰的少量さのしからしめた人災という支障ないであろう。

だから、建築には広い、また深い人間社会としての責任があることを痛感し、むしろ永遠の不足を知る中にある社会であり、人生である方が如何に和やかで平和であり、美しく、真があるということを知らねばならぬと思っ。

以上、いろいろの苦言を呈して、五三会諸賢の一層の御発展を祈り、御多幸を祝してやまない。
(昭和63年1月21日記)

同窓の皆様方には、お元気で御活躍のことと存じます。

今年、我々建築学科の同窓会は、第20期生の卒業生を迎えるという、また、この同窓会会報誌「五三會」も第15号の発行という節目の年となっております。

さて、昨今の建築業界は、景気浮揚のための公共事業の前倒し発注等による建設作業員、建設資材の不足と価格の高騰という事態に陥っており、建築業にたずさわっておられる数多くの同窓の諸氏におかれましては、その気苦勞は大変なことと思います。そんな折り、昭和61年度日本建築学会賞の受賞者の中に同窓生の名前を見付け、同窓生の一人として誇

りに思うと同時に大変うれしい気持ちになった次第であります。

同窓の諸氏におかれましては、肉体的にも精神的にも健康に留意され、これまで以上に切磋琢磨し、この厳しい社会情勢を乗り切られることを心よりお祈り申し上げます。



OBだより

(広島から)

広島を思う

西原建築事務所 西原 淳 (56年卒)

私は建築屋である。建築家などと自からのたまたま輩とは当然のことながら違う。建築屋は物づくりである。職人である。だから建築屋はイデオロギーとか芸術性とは無縁である。

物づくりには限界がある。どんなに心を込めて作っても、所詮、物は物でしかない。出来上がった物を生かすも殺すもその使い手に委ねられているからである。そんな物づくりの過程にはイデオロギーや芸術性などの入り込む余地は無い。出来上がった物が美しいか、住み良いか、ただそれだけである。それをイデオロギーとか芸術性と、言いたいやつには言わせておけばよい。だから物づくりは無口である。そんな無口な建築屋に「広島を考へろ」と言われても、おかしな原稿依頼にただただ当惑するのみ。出て来たものは、へんくつな物づくりの独言にすぎぬ。

近頃テレビやラジオを聞いていて妙に不愉快になることがある。先日某局のラジオ番組の中で東京レポートと称するコーナーに出くわした。どうも、東京のレポーターと電話で結んで、今東京でなにが流行っているのか報告する趣向らしい。そのレポーターの話をしているうちに、だんだん腹が立って来た。その語りくちが、まるでコレを知らなきゃ時代遅れといわんばかりだったからである。

あんな、よその街で流行っている事などを知ってなにが面白いのだろう。確かに東京は様々な情報や機関の集中した街である。多くの人々がその街に魅かれるのも無理はない。

だからといって、そんな簡単に、東京が一番進んでいて、地方都市がそれに追随する、という都市ヒエラルキーの図式を容認して良いという事ではない。マスコミや交通手段の発達によって、日本中が平均化しつつある時だからこそ、他にはない広島文化を発掘する必要があるはずである。にもかかわらず、広島人の東京志向は強い、時に若い人々の東京志向が強い事は、並木通りなどの店構えや、ファッションを見れば顕やかである。

東京志向の強いのは、若者だけではない。自称文化人というやつらのなかに「広島は文化レベルが低い」とか「広島には魅力ある個

性がない」などと理屈をこねている連中がいるらしい。私にはどうして連中がそのような事が言えるのか解らない。「広島は文化レベルが低い」だって!?文化レベルが低いんじゃない、眠っているだけだ。「広島には個性がない」だって?ただマスコミに乗せられて皆んなの顔が東京の方へ向いているだけではないか。広島にも立派な学者も居る、音楽家も居る、絵描きも、建築家も、デザイナーもいるはずだ。ただスポットライトを浴びていないだけだ。

まちづくりは、建築屋だけでは出来ない。正確に言うと地区のマスタープランや建物などのハードな部分は出来るけれども、その建物を生かす使い方、つまりソフトの部分は建築屋の方だけではどうしようもない。それには、ソフト、ハード共に統合して行くコーディネーター的な人材が必要となるであろう。そのような人づくり、物づくり、事おこしが、これからの広島には必要なものではなからうか。

「広島を思う」という課題に対して私の思い浮かんだ事というのは、この程度のものである。だが広島は思ったよりも大きい。きっと私よりももっと立派な建築屋さんが、いらっしゃるに違いない、そんな建築屋さんと一度酒でも飲みながら広島について語り合いたいものである。そしてその酒盛りの輪を広げて行きたいものである。海と山河と輝く太陽を肴にして……



「広島を想う」

株式会社アーバンプレニッシュ 下田卓夫 (50年卒)

広島を想う時、未来の国際平和都市広島姿と、土着の広島らしさを考えてしまう。私の仕事から、最近気にかかることがある。現在、日本中イベント創りに熱中し、お祭り騒ぎで賑わっている。北は北海道から南は沖縄まで、〇〇博覧会だとか、〇〇リゾート開発だとか、また街角の改るところでも同様である。今やイベント企業は花盛りである。かつて大阪万国博覧会が開催された時、日本中が燃えていた。日本中のポテンシャルティアーが結集された結果であろう。

しかし、時代が猛烈からビューティフルへと、人間の豊かさを求める時代へと移行し初めた時において、人々の価値感の多様化が初まった。まちづくり、多種多様な施設づくり、レクリエーション開発など含め、イベント抜では、語れない現状であるように思われる。折も折、当地広島において、先日市の新年度からの3ヵ年実施計画が発表された。

昭和64年は、市制百周年、広島城築四百年であり、それらの節目に合わせて、「'89海と島の博覧会・ひろしま」など記念イベントの推進などが事業の柱とされている。他に主な新規事業として「世界平和をめざすまちづくり」、「自然を守り、生かすまちづくり」、「安全で快適なまちづくり」、「豊かな人間性をはぐくむまちづくり」、「安定した生活のできるまちづくり」などである。地方の時代と言わ

れて久しく、地域性らしきも見い出せないままイベント自体も地方へと分散され多極化されて来た。広島もまた、他都市と同様、イベント時代の潮流の中にたたずんでいるように思われる。まさに、地方イベント誘導型まちづくり時代の到来である。イベントが及ぼす波及効果を考えると、地域の経済発展の寄与・文化活動の促進など、豊かな生活を育むのに多大な影響を生むことは確かである。

これらの現象は、まちづくりや、都市計画、建築を含め環境デザインなどまちづくりに関わる人達にとって、大変重要かつ、不可避な事柄である。かと言って手放しては喜こんでばかりいられないように思われる。それは、受皿としての地域の人々の問題である。

イベントや、文化的施設づくりが、豊かな文化をもたらすものではなく1つの手法に過ぎなく思える。イベント時代が過ぎ去った跡に残るものは、器だけにならぬように、土着の長く地域に根指した人々が、伝統的な歴史を掘起し、伝承し、また新らしき文化の創造を目指してこそ国際平和都市広島の役割とまちとして広島らしき文化が誕生するとも見える。イベント時代の幕明けの時、今一度個々が、広島らしきを考えてみる時期かも知れない。追伸 昨日ひろしま国際平和マラソン参加の申込書が届きました。

OBだより

(近畿支部だより)

近況報告にかえて

建築設計事務所アトリエARC 河野 徹 士 (47年卒)

「優しく、強く、肌ざわりよく」さて、何の商業コピーだと思いつかれるでしょうか？ ハード素材を駆使する堅固な住居のコピーとは、まず、お答えにはならないでしょう。

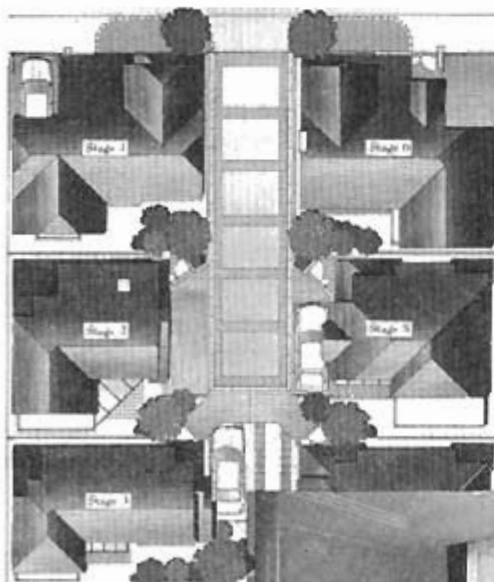
さて、近年、「美、遊、創、感、」の四文字が、現代の価値観の代表とされて、あらゆる商品、業種に浸透しております。日々、建築デザインに携わる私共のアトリエにおきましても例外ではありません。この四文字を敏感にキャッチせずには現代人の住空間の在り方を求めるのは不可能と言えましょう。

主として住居の設計に取り組んでおります私共のアトリエとしましては、街並みは言うまでもなく、付近の自然、環境にまでもと視野を広げ、現代の生活にマッチした建築をと心掛けております。現代にフィットした住居

は申すまでもなく、21世紀に向けての住空間の在りようを模索、検討している日々であります。

ハード素材を基に如何に「優しく、肌ざわりのよい」デザインを追求できるか？

間もなく私共のアトリエは、一歳の誕生日を迎えようとしておりますが、その第一号、第二号作品となります街並が、この「美、遊、創、感、」優しく、強く、肌ざわりのよい作品を目指した物件として竣工の日を迎えることができたのでは、と自負しておりますが、この言葉をモットーに、次々と竣工できますよう日夜、奮闘、切望してやみません。近い将来は、CADを駆使し「美、遊、創、感、」の街並みを誕生させてゆけますよう新年の抱負と致しました。



配置図

「三井ステージ6」(大阪府・豊中市)

この作品は、豊中市内の邸宅地の跡地利用であり、限られた敷地を最大限に活かし、かつシックで新しいイメージを周辺の街並みに投げかけた、ステージ6である。



南よりステージ5・6を望む



室内

在 学 生 だ よ り

62年度五三会学生部会

我が五三会学生部会は、昨年度より建築学科生に、その名を浸透させるという目標と共に、全学年の参加する五三会となるようにして、建築学科生の活発化、活性化と共に縦のつながりのある建築学科にしようとしています。

その為の動きとして全学年の参加できるイベントを考えながら活動しております。

今年度の行事内容

62年3月24日 卒業記念パーティー

広島並木パラストにて前幹部合同により企画・運営・協賛をしました。

62年4月 オリエンテーションセミナー

新入生との交流、五三会・建築学科の説明

62年7月 ソフトボール大会

1～4年の建築学科生を対象に。

62年9月 ビアパーティー（4年生チューター会）この企画・運営

62年11月 大学祭(学科展)

卒業設計展示、建築物写真、パネル展示、建築物ビデオ上映、五三会コンペ発表、設備

空調公開実験、ゼミ室公開など。

63年3月24日 卒業記念パーティー(予定)

以上のような内容であります。その他五三会主催でないイベントにもなんらかの形で参加しています。

今年度は、新規役員を1月中旬に決定し少しでも運営に慣れるようにした。

3月24日の卒業記念パーティーで自分達の仕事は終りになるが、今年目標である全学年の参加する五三会にますます近づくように、がんばろうと思いますので、学生諸君、OBの方々も御協力してやって下さい。



建築を学んで……。

4年 正随 雅一

建築を学び始めて早や4年目をむかえています。この4年間で簡単に2通りに分けて考えてみると、始めのうちは建築に対する知識を吸収する時期で、次はその知識を基に飛躍・発展して行く時期であったと思います。

前者の場合は、受け入れるばかりの一方通行で、自分の内からの創造性という物は全くと言って良いほど考えられませんでした。しかし、この時期を通して得た知識を利用し更に並行して得た物を加えて煮詰めていくと、自分の内から何かの輝き形になって行きました。この事を理解できる様になって初めて建築の面白さに接することができ、興味を唆り、物を作る楽しさがわかってくるのだと思います。人の豊かな創造力は、人夫々違った物を持ち合わせていますが、この創造力こそが建築を考える原点で有り、この事を感じ取るとは、自分の発展の重要な要素となるのではないのでしょうか。

これから先、建築を考えるにあたっては、豊かな感受性と創造力とを持ち合せて、何事に対しても応用がきく様に積極的に考えて行きたいと思っています。

創り出す喜び

4年 藤井 秀幸

建築学科で学んできて、一番、自分の中に残っているものがなんであるかと聞かれればそれは、「何かを創り出すつらさと喜び」かもしれない。

結局、そんな大げさなものをつくってきたわけではないが、授業の設計製図や演習等での自由設計やコンペ参加は、私にとって1枚1枚が苦しみでもあった。

そして、完成した時の喜びでもあった。

イメージだけのボリュームを形にする時、自分の才能のなさをねたましく思ったりもした。それだからこそ、完成した時の喜びはいいあわせないほどでもあった。それは決して、先生にほめられたり、人前に出せるほどのものではなかったかもしれないけれど…。けれども、その1枚1枚がとっとも私にとっては、充実した作品として手もとに残っている。それらは、実際に建築物として建つわけではないが、自分のイメージを形にすることは、何かを創り出そうとする緊張感を得ることができるのである。

それはまさに、「何かを創り出すつらさと喜び」なのである。それらを、これからもより多く体験していきたいと考えている。

13th ITSUMIKAI COMPETITION

第13回五三会コンペ入選発表

コンペ報告

久保 恭一

昭和62年7月30日、第13回五三会コンペは
締切の日を迎えました。

応募する側にとっても、受入れる側にとっ
ても、今迄の苦勞が喜びに変わる瞬間です。
蓋を開けて見ると、学内より3点、学外より
8点、計11点の応募作品がありました。応募
して下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

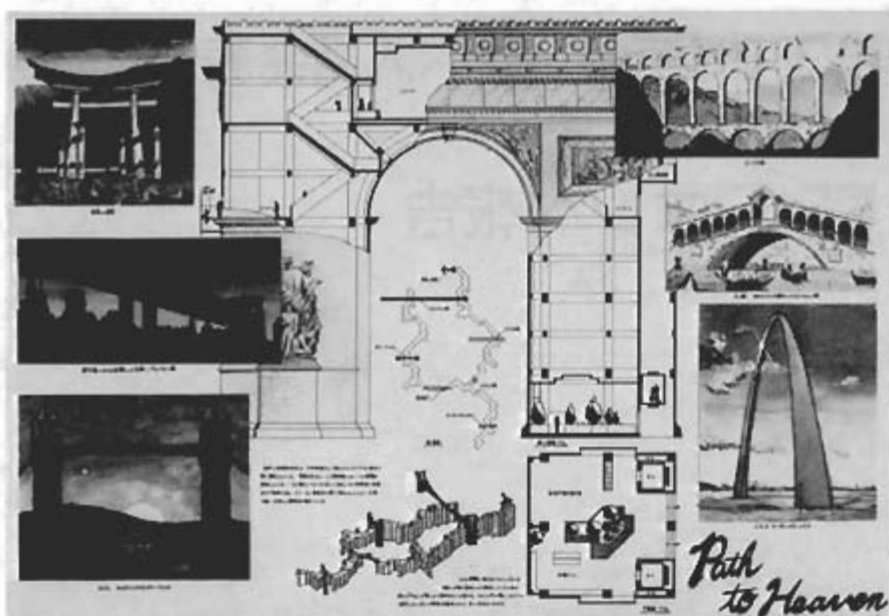
審査は9月15日に行なわれ、水田一征先生
の厳正なる審査により、右記の結果となりま
したことを報告致します。選に入ったものも、
選に漏れたものも、共に力作でその力量の差
は僅少であったように思います。皆様方の今
後の御活躍を期待しております。また御多忙
にもかかわらず快く審査を引受けて下さいま
した水田先生に、そして御協力下さいました
皆様方に末尾ながら感謝の言葉を申し上げます。

『皆様、本当にありがとう御座居ました。』

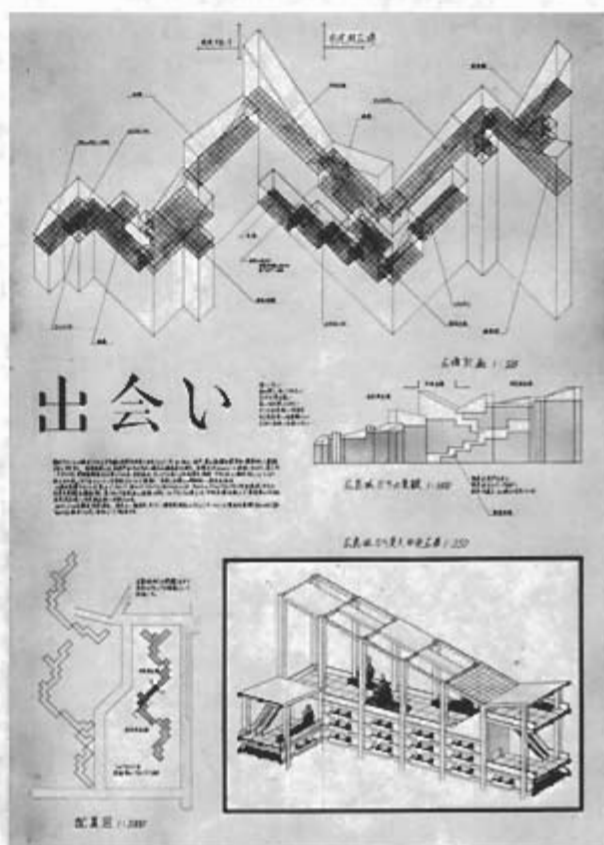
- | | |
|-----|------------------|
| 2等賞 | 吉 哲 也 (福山大学) |
| 2等賞 | 塚 秀 樹 (福山大学) |
| 3等賞 | 志 永 哲 也 |
| | 小 川 幸 祐 |
| | 住 川 雄 一 (広島大学) |
| 3等賞 | 北 村 勇 司 |
| | 朝 日 信 彦 (広島工業大学) |

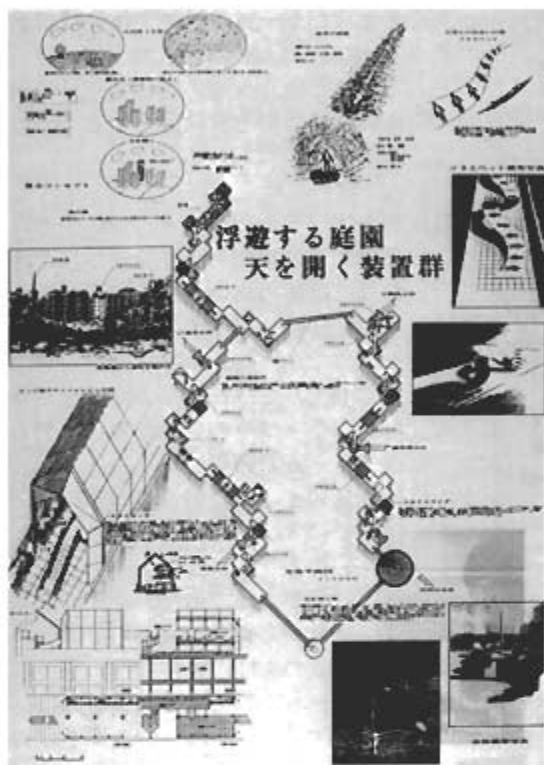


2 等 賞 三吉 哲也(福山大学)

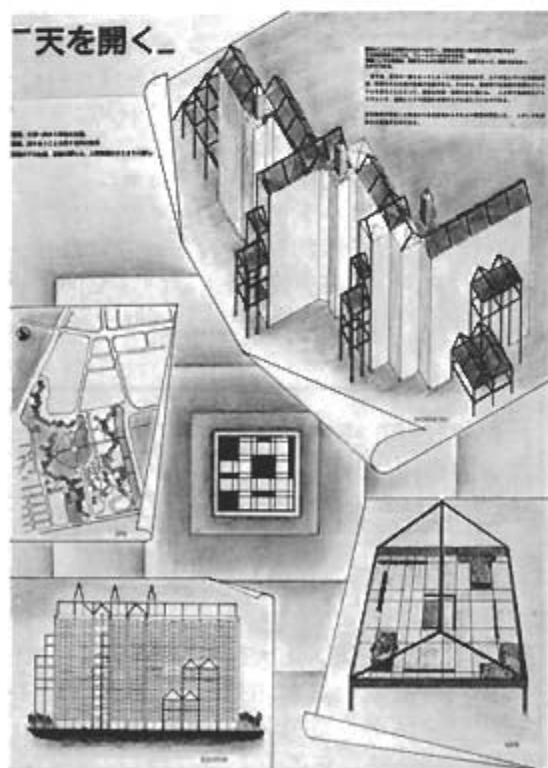


2 等 賞 大塚 秀樹(福山大学)





3 等 賞 志永哲也・小川幸祐・住川雄一
(広島大学)



3 等 賞 北村勇司・朝日信彦
(広島工業大学)

今回の五三会競技設計の主題は、広島市内のメルクマールとなっている感のある基町高層アパート群を例に採って、改造案という形で新しい保存と開発の手法として、現在の建ち姿の上に新しいものをダブルコードで重ね合わせることで差異を生成させるという新しい天空の創出であった。本来対象的に操作が直接及ばないものを志向したことで、テーマとしては難解なものであったであろうが、要は、近代建築が技術の成果と共に開いた上下方向への均質で無限の広がりという重層空間が、無菌で無味無臭の茫漠たる広がり、伸び広がるという力さえ失って、天や地の根源的意味さえ失い兼ねない現況に、コスモスとしての1つの有味有臭な限りを与えてほしいという意味である。

本来、建築は日常生活の世俗的充足という現実性と共に、それを足場にしての愛というか、虚的な構想の演出であるコスモスの設定にこそ命があったものである。昨今のつまらない凡庸な環境は、その理の当然の合理的な現実性のみ安座して、人間の極小性、無記名性に手渡されていたことにある。少なくとも人間の持つ感情を含む意識の中に対応出来ない貧しい意図の具現化であった。

コスモスは天と地と人(環境)を持つ。どのような天を開く(演出する)かは、統合的コスモスの天である以上、相即的な相手たる地と人とを天を志向してどのように立てるかにある。その点で直接的に、天を対象志向的に指差す記号群という空への関わり方の要素を各種点在させて統合を待つのも一つの方法であろう。3等の志水君他の“浮遊する庭園”案はその例であった。重層する住居群の変様

でない場所を選ばぬ要素の群であっただけに、基町の新旧の差異に直接してなくて残念であった。力量は十分と想えたが……。

迂遠なるようだが、世界は非実体的に現前して来るものだけに、世界の変容は、“人”なる空間である環境という天地の間(あいだ)の間(はざま)性の変様に関する程に強くなるものと云えよう。

応募作品全体(9点)は略と、実体的で自己の直接身体的運動空間として設定されたもので、それ故、高層の高いことの境位である観る地平での変様は、ダイナミックには出現して来そうにはなかった。1等を欠いた理由であった。可能性としてそれなりの変様を期待出来そうだが、今一つその変様が表現に繋がらなかった点で、三吉君の橋づくしの作品と、高さの位相の変様と場の空間性との動的な統合が伺えた点で、大塚君の階段広場の案を、2等とした。共に実存的に強く空間の質を滯留している記号化が可能であり、空間的に天の出現の豊かさを支え得ると見たのである。前記の志水君の案の他に、北村君他の重層の位相を家型フレームで異化を仕掛ける案に、変様の可能性を深読みして、他の3案とは力の差があったが、3等とした。

その他の案にもそれなりの可能性の芽も散見出来たが、閉鎖的であったり、単に風景的で表面的であったり、説得する表現の力不足であったり、上記の4案とは力量上に欠けていた。全体として図面の説明不足はもとより表現技術の未熟さや未完成さは特に気になることである。

14th ITSUMIKAI COMPETITION 第14回五三会コンペ 作品募集

●メインテーマ「広島の街づくりを考える」Part3

課題 『インターフェイス』
新しい広島文化発現の場を求めて……。

五三会コンペも今回で第14回目を迎えることが出来ました。これもひとえに皆様方の御支援の賜物と思っております。

今回も前回に引き続き『「広島」の街づくりを考える。』をメインテーマに、具体的敷地を選んで、課題を設定しております。

そこで今回の審査員は、地元広島の実業家であり広島工業大学助教授の 佐藤洋先生 をお願いすることになりました。

佐藤先生は、自ら率先してコンペ等に参加され、その具体的作業の中で学生の手を取って指導される、といった情熱溢れる御教示ぶりでお知らせしております。前回にも増して多数の御応募を期待しております。

〈主旨説明〉

地方の時代と言われ始めて久しい。しかしながら現在の広島を省みれば、むしろ地方の時代に逆行して中央指向が根強くはびこっているように思えてならない。無論、広島のアイデンティティー確立に向けて、行政レベルで数多くの努力が為されていることも事実であるが、そのような意識が個人レベルにまで浸透するには未だ未だ時間がかかりそうである。建物や様々な都市施設を東京並みに充実させる事が必ずしも文化の高揚に繋るとは限らない。むしろ、東京のコピーを広島に作るのではなく、広島の歴史や風土をふまえたうえで、どのような施設を建設するか、またどのようにそれらの施設を運用して市民意識を高揚させて行くか、長期的視野に立った広島独自のプログラムの作成が急務なのである。そのようなプログラムを模索する場で

あると同時に市民の文化レベル高揚の契機となる場としての広島デザインセンターを今回のコンペの課題として思い描いている。そのような場を創出する手助けとして「インターフェイス」なるキーワードを付与しておいた。

「インターフェイス」直訳すると中間面、界面、といった言葉が当てはまる。しかし此処ではもっと意味を拡大して、物と物とを、人と人とを、或は文化と文化etc. を繋ぐネットワークの媒介となるシステムのような意味合い位に考えて頂ければ良いだろう。

そこで今回は「インターフェイス」としての役割を潜在的に担っている場所として元安橋東岸に敷地を設定した。この場所は本通り商店街の西端に位置しており、本通りの入口であると同時に平和公園への本通りからのアプローチとなっている。つまり聖なる平和公園と俗なる本通りとの「インターフェイス」としての役割を担っている場所なのである。

この場所に建つデザインセンターは現代美術、伝統工芸、音楽、建築等、様々なジャンルの芸術文化に市民が日常的に触れ合い、参加するオープンなアトリエ、他国や他の街から訪れた人々に広島文化を知らしめる展示スペース、様々なジャンルを超えて広島文化のあるべき将来像を模索する研究スペース、そして、それらの機能をサポートすると同時に

市民に情報を提供する情報資料センター、の4つの機能を骨子とする。更にメッセコンベンションシティとして市民の語学力アップのための語学研修センター、行政サイドの出先機関としての街づくりサロン等を見込んでいる。其他、サテライトスタジオ、店舗、レストラン、喫茶室、etc. なども考えられるが、これらについては応募者の自由とする。なお敷地内に2本の道路が存在するが道路Aについては本通りの延長として歩行者専用とし道路B・Cをまたぐベデストリアンデッキ、または人工地盤によって平和公園にアプローチするものとする。(建物の位置によっては道路Aの位置を変更してもよい。またその間のレベル差は自由とするが、身障者への配慮をわすれないこと。)道路B・Cについては従来通りとするが、その上部を人工地盤またはベデストリアンデッキによって敷地の一体感を失わないものとする。(人工地盤に採光等のため開口部を設けることは自由とし、その道路面からの高さは6メートルとする。)以上の条件を「インターフェイス」というキーワードに基づいて具体化して頂きたい。「インターフェイス」を具体化するからには元安川からの相貌も考慮し、本通とのコネクションにも連続性を失わないことが望ましい。創意溢れる案を期待している。

●メインテーマ「広島街づくりを考える」Part3

〈所要図面〉

設計意図を表現するために必要なエスキース(パース、イメージスケッチ、模型写真等)を中心とし、主要な平面図、立面図、断面図等は必要に応じてA1サイズ用の紙(紙質は自由)1枚の中に構成すること。

〈表現〉

自由とする。但し未発表のものに限る。

〈応募記載事項〉

作品の裏面に応募者の住所、氏名、電話番号、学校名(会社名)を記入すること。

〈応募資格〉

広島県内所在の大学、高専の建築学科学生及びその卒業生。

〈応募締切〉

昭和63年7月31日

郵送の場合は当日の消印のあるものは有効とする。

〈提出先〉

郵便番号738 広島市佐伯区五日市町三宅
広島工業大学建築学科事務室

〈入選賞金〉

総額10万円

審査結果は、応募者に通知するとともに、大学祭(11月)にて発表、表彰、展示を行う。

〈其他〉

作品の返却、及び、質疑応答はしない。

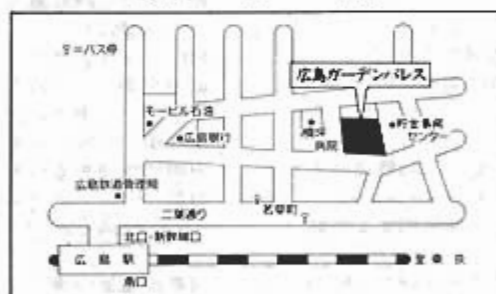


敷地図 1 : 3 0 0 0

第15回総会のお知らせ

- 日 時 昭和63年4月17日(日曜日)
1. 五三会総会……午後3時30分
 2. 工大同窓会……午後4時
 3. 懇談会……午後6時
- 場 所 広島市東区光町1-15 広島ガーデンパレス TEL (082)262-1122
- 内 容 建築学科同窓生五三会員の多数が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、活動報告や会計報告を行ってのち、酒と豪華な料理で、昔話や同業としての話で親睦をはかる。
- 参 加 参加者は、下記事務室に電話連絡か、又は官製葉書に“出席”と書いて4月10日必着をもって申し込み下さい。
- [あて先]
広島市佐伯区五日市町三宅 広島工業大学建築学科菅原研究室
〒738 TEL (0829) 21-3121 内465
- 会 費 3,000円 なお、懇親会は、工大同窓会と一緒にいきます。
(当日御持参下さい。前売券も発売しております。)

〔案内図〕



建築学科ゼミ紹介

(ゼミ毎の卒研テーマ)

(佐藤重夫先生指導)

廿日市市総合計画のうち、市役所計画
廿日市市総合計画のうち、事務所総合建築計画
廿日市市総合計画のうち、音楽ホールと野外劇場
廿日市市総合計画のうち、中央公民館計画
廿日市市総合計画のうち、郵便局と総合ビル計画
廿日市市総合計画のうち、廿日市人工島計画
廿日市市総合計画のうち、共同住宅街計画
廿日市市総合計画のうち、阿品駅と駐車場計画
廿日市市総合計画のうち、廿日市駅と駐車場計画
廿日市市総合計画のうち、地御前神社周辺整備計画
廿日市市総合計画のうち、ヨットハーバー計画
廿日市市総合計画のうち、中央商店街総合建築計画
廿日市市総合計画のうち、図書館と公園計画

(林先生指導)

間壁杭の閉塞効果と支持力機構についての模型実験的研究
杭の先端抵抗と摩擦抵抗による杭周辺土の変位形態と支持力について
石材のネザリ破壊について
安山岩の吸水状態の変化に関する実験的研究
骨材の塩分濃度の減少についての実験的研究

(中尾先生指導)

鉄骨造高層ビルの地震応答解析
クレーン構造体応答のシミュレーション
高強度コンクリートPC壁版に関する研究
鉄骨フレームの大歪弾塑性挙動に関する研究

(佐藤立美先生指導)

薄肉中空室で拘束したRC柱の耐力と靱性に関する実験的研究
片側軸壁付RC柱の耐力と変形性能に関する実験的研究
鉄筋コンクリート有開口壁の隅角部ひびわれ防止に関する基礎的研究
隅角部補強の差異による鉄筋コンクリート有開口壁の破壊形状に関する実験的研究

(牛島先生指導)

住宅の構造及び生産プロセスについて
——業師が丘団地の場合——
解体工法の沿革及び将来の展望
木造在来構法の再考
小粒径の粗骨材を使用したコンクリートの正状について
構法の相違による木造住宅の構造材料数量の比較
——在来工法と枠組壁工法の場合——

(天満先生指導)

古建築の熱環境に関する研究—熱電対による冬期

温度測定 of 補正について—

古建築の熱環境に関する研究—熱電対による温度測定とその補正について—
木造住宅におけるシロアリ被害に関する研究—中国地方の被害実態、及びその傾向—
木造住宅におけるシロアリ被害に関する研究—アンケートによる中国地方の被害調査—
海砂の研究—海砂の塩分量と粒度の関係、及び除塩方法—
海砂の研究—文献調査、及び除塩方法に関する考察—
体育館の設備計画—スポーツ照明設計—
ホテル設備計画—客室環境設計—
音響室をもつ建物の設備計画—音楽演奏に対する音響設計—
劇場の設備計画—舞台照明と防災照明設計—
屋内プールの設備計画—衛生面を重視した設備設計—
百貨店の設備計画—初期消火に重点をおいた防災設備設計—
公共図書館における設備計画—書籍保存を重視した設備設計—

(水田先生指導)

桜井の活性化を目的とした「道」の設計
北九州市に建つ劇場
青少年野外教育施設
4/2文化施設
Mt. 一子供博物館
試験空間としての商業
アーケード街の店舗+老人ホーム。
小規模小学校—シュタイナー教育—
中間的空間をもつギャラリー—
似島リゾートホテル
ART PLAZA

(高松先生指導)

軸力と2軸曲げを受ける比較的フランジ幅厚比の大きいH形鋼柱の局部座屈後の変形性状に関する研究
構造物の耐震極限設計法に関する研究
軸力と2軸曲げを受ける圧延H形鋼柱に関する研究
新耐震設計法に関する研究
H形断面柱の変形能力に最大耐力に及ぼす元たわみと材端拘束の影響に関する研究
信頼性設計法と許容応力度設計法の比較に関する研究
構造物のねじれ振動に関する研究

(森保先生指導)

【論文】

広島市西郊地区における集合住宅の計画的特徴に

関する建築計画的な研究—住宅情報（新聞折込み広告ほか）事例の分析—

住宅の集合形態の視覚的把握に関する建築計画的な研究—高層集合住宅に於ける物的形態とその空間把握の特性について—

低層集合住宅地における居住者の共存的意識に関する建築計画的な研究

広島西部丘陵都市の中央地区におけるまちづくり基本高層—コミュニティ計画のための住民意識の分析—

【設計】

PROJECT OF HIROSHIMA ASIAN GAMES CENTER

TOY・BOX 1988—新しい生活様式を生み出す

“空間のおもちゃ箱”としての集合住宅—

コミュニティセンター—ふれあいの場を求めて—
人工重層宅地と住戸システム

（篠原先生指導）

広島工業大学鶴記念体育館のソーラーシステムの運転実態

温熱環境の評価方法の確立に関する研究

平均皮膚温と舌下温との季節変動に関する研究

運動負荷時の代謝熱量に関する研究

周囲温度による代謝熱量の変化に関する研究

暖高窓近傍の熱対流時における部位表面温度に関する研究

（丹羽先生指導）

運動公園

宇和島市立図書館

西条博物館

小病院

文化センター

音楽ホール

牛田音楽ホール

沼田町宿泊センター

海老山コミュニティセンター

千代田町文化センター

住吉浜リゾートホテル

三原スポーツセンター

福山スポーツセンター

廿日市総合会館

岩国市庁舎

（減野先生指導）

地震動の位相差を考慮した偏心した立体ラーメンの振動性状に関する研究

強震動における非定常スペクトル特性に関する研究

非定常スペクトル特性を有する地震動を受けた構造物の崩壊過程に関する研究

非定常スペクトル特性を有する地震動を受けた構造物の弾塑性応答に関する実験的研究—質点系モデルの場合

丘陵地造成地盤上における構造物の振動性状に関する研究

常時微動測定に基づく地盤の振動特性と木造建物の震害予測に関する研究—呉市の場合

不整形地盤の非線形地震応答解析

（佐藤洋先生指導）

単位空間の構造分析に関する研究

ビル石材における色彩の実測調査および、その調相に関する心理的評価の研究

設計 老人ホーム

健康検査センター

（菅原先生指導）

地域データの整理及びそれら情報の提供に関する研究

広島市の用途地域指定に関する研究（近隣商業地域への指定変更地区と既指定地区の比較・検討）
自治空間領域の現況に関する調査・分析（町内会カルテ等の作成）

地域指定等居住環境に関する文献の整理研究

JR横川駅改造計画—“新都心を目指して”—

廿日市スポーツセンターの計画

焼山地区センターの計画

宇和島コミュニティセンターの計画

（西川先生指導）

【論文】

店舗付マンションの設計計画に関する基礎的研究
高齢化社会に向けての住居・住環境計画に関する研究

【設計】

低層集合住宅の設計

広島市井口に建つ低層集合住宅の設計

広島市井口に建つ高齢者を考慮したコミュニティセンターの設計

廿日市町に建つ老人福祉センターの設計

（清田先生指導）

建築周辺気流の観測と解析に関する研究

建築物の相互干渉が建築物壁面風圧に及ぼす影響に関する研究

建築物の相互干渉が建築物周辺気流に及ぼす影響に関する研究

建築物の相互干渉が建築物周辺空間静圧に及ぼす影響に関する研究

市街地風の乱流構造が建築物壁面風圧変動に及ぼす影響に関する研究

昭和61年度卒業予定者就職内定一覧

〈建築学科A〉

氏名	企業名	氏名	企業名
阿南 嘉秀	信樹	中下 厚彦	彦実
阿池 晴	樹子	中仲 冬文	功樹
池田 和真	明貴	中中 英文	久樹
石川 雅高	司之	中野 英幸	樹雄
市川 高範	則行	西野 和史	司敬
岩崎 雄利	行文	野原 史秀	哲久
岩上 智達	恒彦	畑田 成敬	久彦
内梅 早出	介彦	羽日 秀神	二隆
江高 智達	弘也	日平 成敬	利三
大野 早敏	智次	広福 秀惠	幸司
大同 敏義	行人	藤古 信慎	二二
岡村 泰榮	二隆	牧松 昌将	功則
岡小 山美	博治	松丸 正秀	之義
押角 義雄	博美	水正 清惠	司登
加片 幸英	仁二	宮邦 德博	志司
川越 雄秀	貴治	森山 正清	男生
菅田 幸和	明宏	山崎 博智	章修
吉原 惠洋	究子	山本 智和	文久
紀木 康正	志和	山波 修芳	重平
倉會 雅文	淳己	田村 秀克	敏成
己河 方儀	治男	島博 朋弘	充彦
小野 博	男幸	多小 一弘	昭晃
笹財 雅文	正一	清高 秀克	裕一
藤島 推達	敏志	中西 雅文	通成
正之内 建賢	治人	丹野 秀克	子宏
之木 義	基登	野信 一弘	也明
鈴木 義伸	二明	濱野 雅文	徹一
滝本 秀成	信惠	廣藤 秀	
水本 公基		松山 秀	
法桐		山山 秀	
阿谷 天德		西山 秀	
道中			

[広島工業大学建築学科] [教員及び非常勤講師名簿]

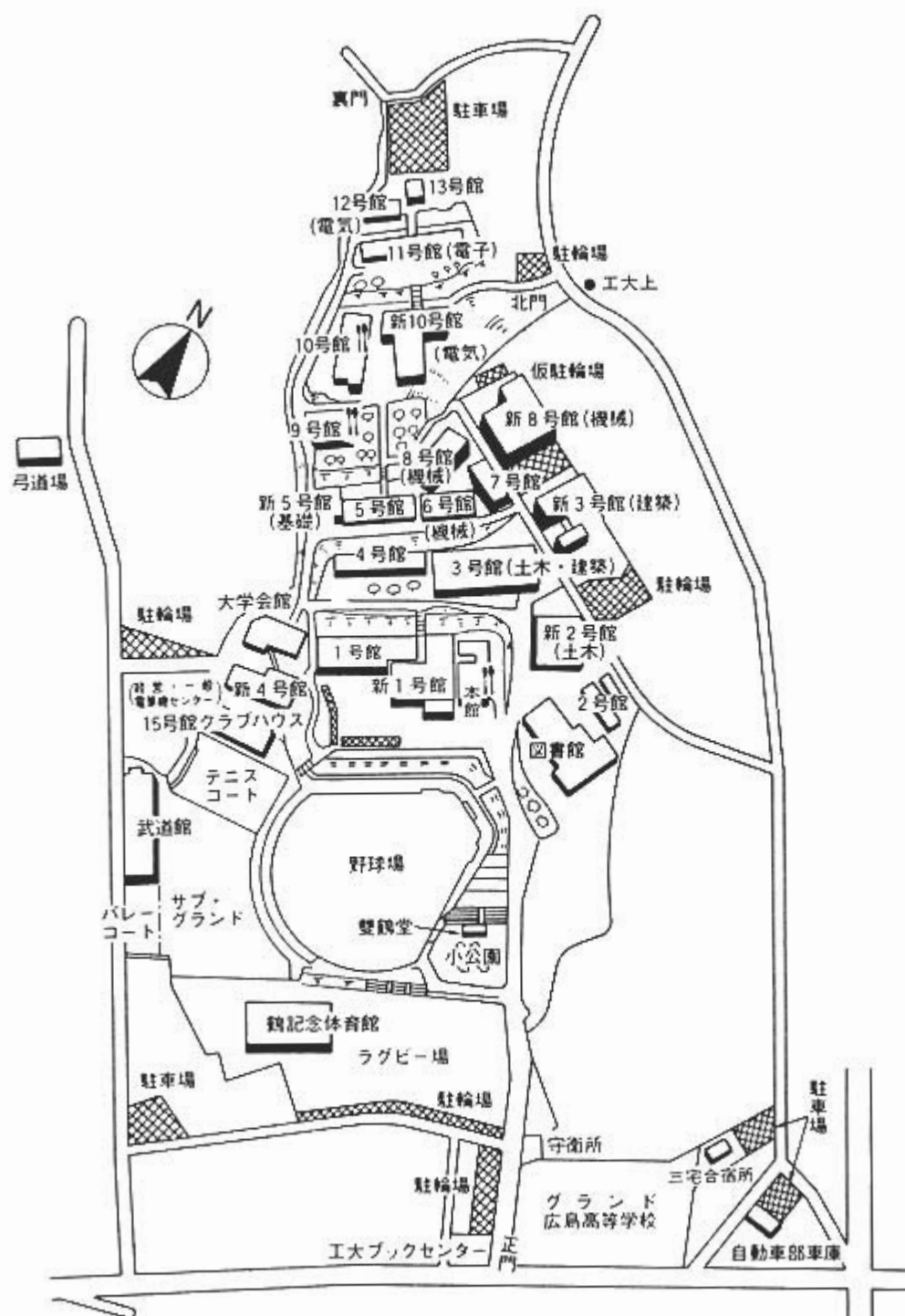
(建築学科教職員・専任教職員)

氏名	住 所	郵便番号	電話番号
佐藤重夫			教授
林公重			"
中尾好昭			"
船越稔			"
金井清			"
青木栄			"
牛島賢象			助教授
天満祥弥			"
水田一征			"
高松隆夫			"
谷嘉夫			"
森保洋之			"
篠原道正			"
佐藤立美			"
丹羽博亨			"
浅野雄			"
佐藤洋			"
西川彌			"
菅原幸			"
清田良			講 師
手越誠			助 手
大 林 真			技術職員

(招聘講師)

氏名	非常勤
嶋津孝之	非 常 勤
谷口汎	"
花井正実	"
光吉健次	"
椋代仁朗	"
青木義次	"
杉本俊多	"
岡部直人	"
牧野純一	"
恩賀宗一郎	"
小野泰	"
関根毅	"
平谷清	"
角田弘	"
有馬秀	"
早川野	"
川 一	"

母校キャンパス案内



五三会活動報告

●幹事長 上之博文

五三会は、本年度の卒業生で20期目のメンバーを迎えることになりました。

会員各位におかれましては、景気回復のままならぬ社会情勢が続いておりますがいかがおすごでしょうか。本会は、会員各位の親睦と情報交換の場でありますので、本会を大いに活用していただくと共に、会員各位の相互協力によりまして、本会のますますの発展に尽力を賜われれば幸いです。

さて、本年度の活動としては、次の様な行事を行ってまいりました。以下ここに御報告申し上げます。

報告内容

昭和62年度活動報告

1. 第14回定期総会の開催
2. 会報誌「五三会」第15号発刊
3. 第13回五三会コンペの実施
4. 存学生に対する援助
5. 会員住所カードの整理
6. 五三会本部組織の強化
7. 五三会会員増加運動

昭和62年度役員

(会 長)	生田 文雄		
(副 会 長)	下 健蔵	森田 洋生	
(会 計)	山本 富夫	林 直智	
(会計監査)	有馬 秀宣	森京 正	
(書 記)	中塚 晴夫	松田 智仁	
(幹 事 長)	上之 博文		

五三会は、昭和58年度から終身会費制を導入しておりますが、未払いの方及び未加入の方は早急に手続きをお願いしたいと思います。下記五三会事務局へ御連絡下されば振込用紙をお送りさせていただきます。

【五三会事務局】

広島市佐伯区五日市町三宅
広島工業大学建築学科菅原研究室内
〒731-51 TEL(0829)21-3121

五三会収支決算報告

〔昭和61年度収支決算報告〕

◆収入の部

繰越金	2,376,567円
会員会費	10,000
広告料	430,000
雑収入	3,602
合計	2,820,169円

◆支出の部

印刷費	380,000円
郵送費	5,270
会議費	42,900
総会負担金	0
コンベ	200,000
在学生援助費	20,000
バイト費	30,000
消耗品等雑費	0
予備費	200,000
繰越金	1,941,999
合計	2,820,169円

〔昭和62年度収支予算〕

◆収支の部

◆支出の部

科目	小科目	金額	科目	小科目	金額
会費収入		700,000円	管理費		440,000円
	新会員会費	700,000		総会費	50,000
				会談費	210,000
活動収入		750,000		人件費	50,000
	広告料	750,000		消耗品費	10,000
雑収入		4,001		備品購入費	50,000
	利子収入	1,000		印刷費	40,000
	寄付収入	1		通信費	20,000
	雑収入	3,000		雑	10,000
積立金取崩収入		0	活動費		1,080,000
	積立金取崩収入	0		会報発行費	810,000
繰越金		1,941,999		コンベ	200,000
	繰越金	1,941,999		会勢費	20,000
合計		3,396,000円		学術文化費	50,000
			予備費		156,000
			予備費		156,000
			積立金		172,000
			積立費		172,000
			繰越金		1,548,000
			繰越金		1,548,000
			合計		3,396,000

広島工業大学建築学科同窓会

「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- 1 集 会
 - 1 会員相互の連絡並びに共助に関する事
 - 1 会誌及び会員名簿の発刊
 - 1 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
 - 1 その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以って組織する。
- 1 会 員 広島工業大学建築学科卒業生
 - 1 学生会員 広島工業大学建築学科在学生
 - 1 客 員 母校職員及び旧職員
 - 1 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | | | |
|---------|-----------|--------|-----|
| 1 名誉会長 | 置くことができる | | |
| 1 会 長 | 1 名 | 1 副会長 | 2 名 |
| 1 会 計 | 2 名 | 1 会計監査 | 2 名 |
| 1 幹 事 長 | 1 名 | 1 幹 事 | 若干名 |
| 1 評 議 員 | 各卒業年度に若干名 | 1 書 記 | 2 名 |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- 1 名誉会長は総会をもって推す
 - 1 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・評議員は総会で正会員の中から選ぶ
 - 1 幹事長は幹事の中から互選する
 - 1 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する

- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- 1 会 長 本会を代表し会務を統べる
 - 1 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
 - 1 会 計 会計事務に当る
 - 1 会計監査 会計を監査する
 - 1 幹 事 長 会務を主宰する
 - 1 幹 事 会務を処する
 - 1 評 議 員 会務を評議する
- 第 9 条 役員任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充しこれによつて就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章 顧問

- 第 10 条 この会に顧問若干名をおく。
- 1 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
 - 1 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会議

- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会及び役員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
- 1 会則の変更と改正
 - 1 決算及び予算
 - 1 役員改選
 - 1 その他重要な事
- 第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。
- 1 総会に附議する原案
 - 1 この会の運営に関する諸事項
 - 1 その他緊急事項の協議
- 第 15 条 会議の議決は会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会計

- 第 16 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
- 1 会員は入会金と終身会費として、入会時10,000円を納入しなければならない
 - 1 学生会員は在学期間の会費として2,000円を納入しなければならない
- 第 17 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

付 則

終身会費については、昭和58年度から施行する。

役員の変遷

◆昭和48年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 青木 能典(44)
井上 隆寿(48)
会 計 小田 正志(45)
平林 三鈴(48)
会計監査 秋本 孝孝(44)
石田 三郎(44)
書 記 石原 勝博(45)
古賀 照明(48)
幹 事 長 金堀 一郎(45)

◆昭和49年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 青木 能典(44)
会 計 坂本 和人(45)
手越 義昭(49)
会計監査 石田 三郎(44)
村上 忠義(49)
書 記 古賀 照明(48)
近松 一雄(48)
幹 事 長 金堀 一郎(45)

◆昭和50年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 青木 能典(44)
会 計 近松 一雄(48)
村上 忠義(49)
会計監査 椋田 克生(44)
石田 三郎(44)
書 記 馬場富次郎(46)
稲場 孝三(49)
大原順三郎(46)
幹 事 長 勝田 民雄(45)

◆昭和51年度

会 長 秋本 孝(44)
副 会 長 椋田 克生(44)
渡辺 武彦(44)
会 計 上之 博文(50)
会計監査 青木 能典(44)
岩田 幸三(47)
幹 事 長 生田 文雄(47)

◆昭和52年度

会 長 知野 吉春(44)
副 会 長 勝田 民雄(45)
德清 秀夫(48)
会 計 河内 浩志(52)
吉川 澄生(44)
津田 靖文(50)
上之 博文(50)
幹 事 長 上之 博文(50)

◆昭和53年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 坂本 知人(45)
加藤 寛治(45)
会 計 岩本 慎二(53)
吉川 澄生(44)
書 記 藪 健蔵(47)
幹 事 長 金堀 一郎(45)

◆昭和54年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 生田 文雄(47)
德清 秀雄(48)
会 長 横川 博之(54)
菅 隆二(50)
会計監査 上之 博文(49)
書 記 岩田 幸三(47)
幹 事 長 下 健蔵(47)

◆昭和55年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 生田 文雄(47)
下 健蔵(47)
会 計 手越 義昭(49)
菅 隆二(50)
馬場富次郎(46)
書 記 林 恵和(50)
幹 事 長 中島 伸夫(49)

◆昭和56年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 下 健蔵(47)
生田 文雄(47)
会 計 菅尾 宣徳(52)
菅 隆二(50)
会計監査 菅 隆二(50)

書 記 森田 洋生(47)
幹 事 長 手越 義昭(49)

◆昭和57年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 下 健蔵(47)
生田 文雄(47)
会 計 坂田 光彦(48)
清水 康考(54)
会計監査 菅尾 宣徳(52)
書 記 森田 洋生(47)
佐々木正治(47)
幹 事 長 手越 義昭(49)

◆昭和58年度

会 長 生田 文雄(47)
副 会 長 下 健蔵(47)
森田 洋生(47)
会 計 坂田 光彦(48)
清水 康考(54)
会計監査 手越 義昭(49)
書 記 佐々木正治(48)
幹 事 長 菅尾 宣徳(52)

◆昭和59・60年度役員

会 長 中塚 晴夫(44)
副 会 長 青木 能典(44)
下 健蔵(47)
会 計 山本 富夫(50)
山本 忠義
菅尾 宣徳(52)
会計監査 秋本 孝(44)
手越 義昭(49)
書 記 生田 文雄(47)
幹 事 長 森田 洋生(47)

◆昭和61年度役員

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 秋本 孝(44)
井上 明夫(44)
会 計 生田 文雄(47)
山本 富夫(50)
下 健蔵(47)
菅尾 宣徳(52)
書 記 中塚 晴夫(44)
幹 事 長 森田 洋生(47)

役員の変遷

◆昭和48年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 青木 能典(44)
井上 隆寿(48)
会 計 小田 正志(45)
平林 三鈴(48)
会計監査 秋本 孝孝(44)
有田 三郎(44)
書 記 石原 勝博(45)
古賀 照明(48)
幹 事 長 金堀 一郎(45)

◆昭和49年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 青木 能典(44)
会 計 坂本 和人(45)
手越 義昭(49)
会計監査 有田 三郎(44)
村上 忠義(45)
書 記 古賀 照明(48)
近松 一雄(48)
幹 事 長 金堀 一郎(45)

◆昭和50年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 青木 能典(44)
会 計 近松 一雄(48)
村上 忠義(45)
会計監査 椋田 克生(44)
有田 三郎(44)
書 記 馬場富次郎(46)
稲場 孝二(49)
大原順二郎(46)
幹 事 長 勝田 民雄(45)

◆昭和51年度

会 長 秋本 孝(44)
副 会 長 椋田 克生(44)
渡辺 武彦(44)
会 計 上之 博文(50)
会計監査 青木 能典(44)
岩田 幸二(47)
幹 事 長 生田 文雄(47)

◆昭和52年度

会 長 知野 吉春(44)
副 会 長 勝田 民雄(45)
徳清 秀夫(46)
会 計 河内 浩志(52)
会計監査 吉川 澄生(44)
津田 靖文(50)
幹 事 長 上之 博文(50)

◆昭和53年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 坂本 知人(45)
加藤 寛治(45)
会 計 岩本 慎二(53)
会計監査 吉川 澄生(44)
書 記 審 健蔵(47)
幹 事 長 金堀 一郎(45)

◆昭和54年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 生田 文雄(47)
徳清 秀雄(46)
会 長 横川 博之(54)
菅 隆二(50)
会計監査 上之 博文(49)
書 記 岩田 幸二(47)
幹 事 長 下 健蔵(47)

◆昭和55年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 生田 文雄(47)
下 健蔵(47)
会 計 手越 義昭(49)
菅 隆二(50)
馬場富次郎(46)
会計監査 林 憲和(50)
書 記 中島 伸夫(49)
幹 事 長

◆昭和56年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 下 健蔵(47)
生田 文雄(47)
会 計 背尾 宜徳(52)
会計監査 菅 隆三(50)

書 記 森田 洋生(47)
幹 事 長 手越 義昭(49)

◆昭和57年度

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 下 健蔵(47)
生田 文雄(47)
会 計 坂田 光彦(48)
清水 康考(54)
会計監査 背尾 宜徳(52)
書 記 森田 洋生(47)
佐々木正治(47)
幹 事 長 手越 義昭(49)

◆昭和58年度

会 長 生田 文雄(47)
副 会 長 下 健蔵(47)
森田 洋生(47)
会 計 坂田 光彦(48)
清水 康考(54)
会計監査 手越 義昭(49)
書 記 佐々木正治(48)
幹 事 長 背尾 宜徳(52)

◆昭和59・60年度役員

会 長 中塚 晴夫(44)
副 会 長 青木 能典(44)
下 健蔵(47)
会 計 山本 富夫(50)
山本戸忠義
会計監査 背尾 宜徳(52)
秋本 孝(44)
手越 義昭(49)
書 記 生田 文雄(47)
幹 事 長 森田 洋生(47)

◆昭和61年度役員

会 長 菅原 辰幸(44)
副 会 長 秋本 孝(44)
会 計 三上 明夫(44)
生田 文雄(47)
山本 富夫(50)
会計監査 下 健蔵(47)
背尾宜徳(52)
書 記 中塚 晴夫(44)
幹 事 長 森田 洋生(47)

編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

「広島」をテーマに掲げましたが、編集委員の力不足もあり、少し寂しい内容となりました。

会員からの寄稿が、一つの大きな情報です。近況、作品、紀行文、意見、趣味等、何でもよろしいですから事務局までお寄せ下さい。お待ちしております。

「五三会」第15号 編集委員

上木 薫(5)	広島県都市局営繕課 ☎ 082-228-2111
小川 雅彦(5)	広島大学施設部建築課 ☎ 082-241-1221
西本 治雄(5)	広島ミサワホーム(株) ☎ 082-293-1116



広島工業大学建築学科同窓会誌 「五三会」第15号

編集責任者	小川 雅彦
発行責任者	菅原 辰幸
企画・製作	アクト企画
発行	昭和63年3月31日